

## 11. 高度の肝硬変を呈した日本住血吸虫病の一例

大田 秀 浄、吉 川 元 一 \*

本邦に於ける日本住血吸虫病の人体解剖例は本病の生活環発見前、明治21年馬島氏、及び栗木氏により報告され、明治37年桂田氏、藤浪氏により本病病原虫体の発見の前後に、藤浪氏により15例、尚本県に於ては明治30年下平氏により西山梨郡清田村（現在の玉諸村）杉山仲子の遺言にもとずいてなされた人体解剖例が嚆矢をなし、本病研究史上極めて貴重な資料となり、明治37年土屋氏により3例が報告された。本病の生活環及び治療方針が確立されて以来、本県に於ける剖検例をみない。

私共は多年有病地に於て農に従事し、少年時代より本病に再三罹患するも、地方病撲滅指導員として21年間身命を捧げ、本病の恐怖を身を以て体験し「本病患者を救ふ道は自分の死後の屍を医学研究の為、解剖に提供し、本病の完全治療と完全撲滅の日の一日も早く到来し、30万住民が安心して農事に従事出来ることを心から願ふものである」との遺言書を残して、32年5月4日永眠された。遺言にもとづき剖検したので、その概略を報告する。

### 症 例

患 者： 中 ○ 治 ○ 56才 男 農業

家族歴： 特記すべきものなし。

既往症： 本県中巨摩郡田富村小井川に出生、12才の時以来、40才までに数回本虫の排卵をみ、且つその間 Stibnal による治療を6クールも受け乍ら、尚50才の時に本虫の排卵を認められたが、全身浮腫、貧血等現はれ、本虫の治療も不可能となり放置し、田畑仕事もなし得ず、自宅療養をしていたが昭和30年3月に来所受診した。

生活歴： 喫煙28才より1日20本位、飲酒せず、魚肉より野菜類を好み、52才9月頃より茶の葉を生で食べる習慣あり。

主訴： 動悸、眩暈、全身倦怠、食后胃部膨満感、腹水、全身浮腫、四肢しびれ感。

現症： 体格大、栄養不良、脉搏数70、壁稍硬化、緊張稍不良、整脈、顔面浮腫状、蒼白稍黄疸色、口唇チアノーゼ様、眼結膜蒼白貧血稍黄疸色、爪床萎縮、蒼白、心臓肥大、心尖部吹鳴様収縮性雑音、第Ⅱ肺動脈音強度亢進、頸静脈独楽音著明、肺臓変化なく、脾濁音を認む。腹部、腹囲最大82cm、軽度膨隆、静脈怒脹著明ならず、波動を認め、肝臓は右葉触知せず、左葉は創状突起下4横指硬く、辺縁鈍、表面凹凸、圧痛なし。脾臓は下縁は臍線上より2横指上、右縁は中央線より3横指左、硬く、表面平滑。

臨床所見： 尿は日本住血吸虫卵(-)、鉤虫卵(+)、鞭虫卵(+)、潜血反応陰性。尿は蛋白、糖、グメリン陰性、ウロビリノーゲン陽性、ミロン氏反応陽性。血液は血色素32%。赤血球300万、白血球3900、血色素係数0.5、網状赤血球0.4%、分類像は好酸球4%、好中球78.4%、プラズマ細胞1.6%、赤血球不同症及び変形赤血球強度、高田氏反応陽性、B.S.P. 7.5%。

経過： DL-メチオニン等を時折服薬、利尿剤も特に効果なく、腹囲は最大115cmとなる。本年4月24日腹腔穿刺をなすに、肝臓は左葉2½横指と初診時より萎縮、脾臓は特に著変なく、更に26日に再び穿刺をなしたるも、全身衰弱日に強まり、5月4日鬼籍に入り、5月5日病理解剖を実施した。

病理解剖所見：紙面の都合上詳細は畧し、主要剖検診断は、1) 寄生虫性萎縮性肝硬変、2) 有疣性心内膜炎、心肥大、3) 巨大脾、4) 両側腎肥大兼腎変性、5) 両側肺水腫兼左陳旧性結節性結核性病巣、6) 腹水(約3000cc)、7) 横行、下行結腸及び直腸(主に下行、直腸)外壁に於ける寄生虫性結節形成、8) 黄疸(全身皮膚及び眼球結膜)、9) 肝周囲炎及び胆嚢拡張症、10) 左癒着性線織性肋膜炎、11) 大動脈硬化症、12) 鉤虫症等であつた。

## 結 語

多年本病に悩まされ農事の傍ら、地方病指導員として撲滅に尽力し、死后解剖の遺言書を残して死亡された患者の臨床所見及び剖検の概略を報告したが、今后組織学的所見について附加して発表した。

(本論文の要旨は昭和32年5月19日に山梨県医師会研究発表会にて発表した。)

\* 国立療養所清楽荘

## 12. 日本住血吸虫の中間宿主 (*Oncomelania nosophora*) 体内に於ける發育に関する研究

大 田 秀 浄

### 緒 言

日本住血吸虫の中間宿主 *Oncomelania nosophora* (以下宮入貝と記述す) が宮入・鈴木により発見されてより、その發育環についての研究は逐次推進された。宮入貝の解剖学的研究は、中本・板垣、Roth and Wagner の研究があり、宮入貝体内に於ける仔虫の發育も宮入・鈴木・宮川 Faust and Meleny によつて研究されていることは既知の事実である。しかしその發育過程につき貝体内の移行部位については明瞭な記載がなされていないので、余はそれを解明する為、実験室内並びに野外実験により宮入貝に於ける日本住血吸虫の發育について研究する為、貝の連続組織標本を作成し、その發育過程を追跡し、聊か所見を得たので報告する。又、發育期間、及びその他に2・3の所見を得たので茲に併せて報告する。

### 実験方法並びに材料

- a. 日本住血吸虫 *Miracidium* の宮入貝への人工感染方法
- b. 感染宮入貝の飼育方法
- c. 宮入貝の組織標本作成方法

### 実験室内並びに野外に於ける日本住血吸虫の宮入貝体内に於ける發育状態

- a. 室内実験成績
- b. 野外実験成績

### 小括並びに考按

### 実験室内並びに野外に於ける日本住血吸虫の宮入貝体内に於ける發育の組織学的所見

- a. 室内実験成績
- b. 野外実験成績